2026 年 11 月 15 日　降誕前節第 6 主日礼拝次第

収穫感謝・主日礼拝

前　　奏　　（黙　想）
招きの言葉　　ヘブライ人への手紙8章 11～12 節(新約 410 ページ)
讃 美 歌　　534（キリストの使者たちよ）
主の祈り　　＜C＞（讃美歌93－5）
詩 編 交 読　　詩77編 1～21 節（交読詩編 87 ページ）
聖　　書　　出エジプト記3章 1～15 節（旧約 96 ページ）
祈　　祷
讃 美 歌　　558（主よ、聞きたまえ）
説　　教　　「今，行きなさい」　田中雅弘
讃 美 歌　　467（われらを導く）
信 仰 告 白　　使徒信条＜B＞（讃美歌93－4）
献　　金
讃 美 歌　　88（こころに愛を）
派 遣 祝 福
後　　奏　　（黙　想）
報　　告
※讃美歌は原則として全節を歌います。

主の祈り C（讃美歌21　93－5－C）

司式者）天の父
一　同）わたしたちの父よ，
み名があがめられますように。
あなたの国が来ますように。
みこころが天と同じく地でも行われますように。
きょうのパンを　きょうお与えください。
わたしたちの負い目をおゆるしください。
わたしたちも負い目をゆるし合います。
わたしたちを誘惑におちいらせず，
かえって悪からお救いください。
国も力も栄えも、限りなくあなたのものです。アーメン

聖　書　出エジプト記3章 1～15 節

モーセの召命

1 モーセは、しゅうとでありミディアンの祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒れ野の奥へ追って行き、神の山ホレブに来た。 2 そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。 3 モーセは言った。「道をそれて、この不思議な光景を見届けよう。どうしてあの柴は燃え尽きないのだろう。」

4 主は、モーセが道をそれて見に来るのを御覧になった。神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼が、「はい」と答えると、 5 神が言われた。「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」 6 神は続けて言われた。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは、神を見ることを恐れて顔を覆った。

7 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。 8 それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む所へ彼らを導き上る。 9 見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼らを圧迫する有様を見た。10 今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」

11 モーセは神に言った。「わたしは何者でしょう。どうして、ファラオのもとに行き、しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」12 神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」13 モーセは神に尋ねた。「わたしは、今、イスラエルの人々のところへ参ります。彼らに、『あなたたちの先祖の神が、わたしをここに遣わされたのです』と言えば、彼らは、『その名は一体何か』と問うにちがいありません。彼らに何と答えるべきでしょうか。」

14 神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」 15 神は、更に続けてモーセに命じられた。「イスラエルの人々にこう言うがよい。あなたたちの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主がわたしをあなたたちのもとに遣わされた。これこそ、とこしえにわたしの名、これこそ、世々にわたしの呼び名。

讃美歌534番
1 キリストの使者たちよ、
罪と死の世に向かい、
よい知らせ 宣べつたえ
ととのえよ、主の道を。
2 砂漠にも荒れ野にも、
さかまく荒海にも、
信仰をもってたくましく
拓きゆけ、主の道を。
3 よこしまはなおのこり、
悪のやみ深くても、
み言葉にみちびかれ、
進みゆけ、主の道を。
4 主の民は強められ、
約束は果たされて、
平和の主の勝利の日、
ほめうたえ、み栄えを。

讃美歌558番
1 主よ、聞きたまえ、叫ぶ声を。
貧しき民は ふみにじられ、
政治は乱れ、よこしま満つ、
われらのおごり くだきたまえ。
2 主よ、向けたまえ、きよきみ顔。
いつわりの声、惑わす知恵、
身近に迫る 危機のなかに
まどろむわれら 覚ましたまえ。
3 主よ、立ちたまえ、この時代に。
正義と白由の 旗のもとに、
すべての人を 招くために、
遣わしたまえ、主よ、われらを。

讃美歌88番
心に愛を 豊かにみたし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讃美歌467番
1 われらを導く 贖いの主よ、
力強い手で 旅路を守り、
そなえてください、天の糧、
命のパンを。
2 泉を開いて 渇きを癒し、
炎と雲との 柱を立てて、
行かせてください、世の旅路。
主よ、わが盾よ。
3 ヨルダンの流れを 渡るわれらの
死の恐れ砕き 導く神よ。
ほめうた歌おう 声高く、
約束の地で。